



お母さんへの感謝を叫ぶ子どもたち

5/5 家族への思いを絶叫

5月14日まで「花フェスタ2010春まつり」が開催された花フェスタ記念公園で、「家族の絆 仲よし 家族絶叫大会」が行われました。

「家族に一言言いたいこと」をテーマに、ステージへと上がった65人の参加者たちは、「ママ大好き」「いつもおいしい料理をありがとう」「お父さん、たばこやめて」など、家族に対する思いを大きな声で叫びました。

5/7 地域の「先生」に習ったよ

地域の主婦らが参加する「広見げんきかい!!」の会員7人が、広見小学校6年生の授業で、児童のナップザック作りを手伝いました。

児童らは「しつけ縫いの糸は1本でいいですか」などと質問をしながら、修学旅行に持っていくナップザックを作りました。会員らは、児童の後ろから手を差し出し、「上手、上手。その調子」と声を掛けながら指導しました。



会員からミシンの使い方を習う児童たち



羽生ヶ丘自治会花壇での花植えの様子

5/9 花のあふれるまちを

春の花いっぱい運動が市内全域で行われ、子どもからお年寄りまで多くの市民が参加しました。

参加者は、道路や公園などの除草作業やごみ拾いに汗を流し、ごみ袋をいっぱいにしていました。

また、花壇にペゴニアやマリーゴールドなど、合計で約4万株の花の苗が植えられました。

同運動実行委員会が主催する今年度の花壇コンクールに参加する自治会もあり、花壇は美しく彩られました。

5/15・16 生演奏を身近に

文化創造センターを運営する(財)可児市文化芸術振興財団と地域拠点契約を結んでいる新日本フィルハーモニー交響楽団。その演奏者4人が市内の施設で演奏し、参加者と交流しました。

5月15日には広見公民館ゆとりピアで「おでかけコンサート」が行われました。会場に訪れた約150人の来場者は、プロの生演奏を間近で聞き、その後の交流会で触れ合い、楽しいひと時を過ごしました。



弦楽四重奏の音色に酔いしれる参加者たち

春の叙勲



旭日双光章
地方自治功労

田口進さん(中恵土 74歳)

可児市議会議員を6期、20年8カ月務め、副議長や議長を歴任。その間特に、青少年育成や交通安全などに力を注いでこられました。

国家または公共に功労のある方で、その内容が特に顕著な功績を挙げた方に贈られる、旭日双光章を受章されました。

春の褒章



藍綬褒章
社会福祉功績

鈴木隆道さん(羽崎 76歳)

昭和57年12月に民生児童委員になられ、27年間活動を続けられています。

平成16年からは、県民生委員児童委員協議会会長も務められています。

公衆の利益を興した方や、公同の事務に尽力した方に贈られる、藍綬褒章を受章されました。

危険業務従事者叙勲

長年にわたり、警察官や自衛官など、危険度の高い仕事で社会に貢献された方に贈られる危険業務従事者叙勲。市内で受章されたお2人を紹介します。



瑞宝単光章
山田義正さん
(今渡 61歳)

元3等陸尉
防衛功労



瑞宝単光章
屋上昭次さん
(瀬田 71歳)

元岐阜県警部補
警察功労



東海環状道を背に川を上る「光秀丸」

~5/1 新緑の水面を遊覧

4月22日から5月1日まで、「木曽川舟遊び2010春」が行われ、多くの人でにぎわいました。この催しは、川合渡し場跡を発着場として、「兼山瀨」までを屋形船「光秀丸」に乗り、小山観音を經由しながら1時間40分かけて往復するものです。期間中は、午前と午後の便が運航されました。

参加者からは「普段は見ることのできない水面からの景色が良かった」などの感想が聞かれました。

5/3・4 楽しく資源を再利用

わくわく体験館で、「ごみと遊ぼう」が開催され、約360人が参加しました。この催しは、工作を楽しみながら資源を再利用する企画で、5年目を迎えます。

参加者は、熱でつぶした廃びんに模様をつけ、世界に一つだけの作品を制作したり、トレーや空き箱を使って「壁のぼりおもちゃ」を作りました。

会場では、「きれいにできた。おうちに飾りたい」という、子どもたちの元気な声が聞かれました。



廃びんを使った作品づくりに熱心に取り組む子どもたち